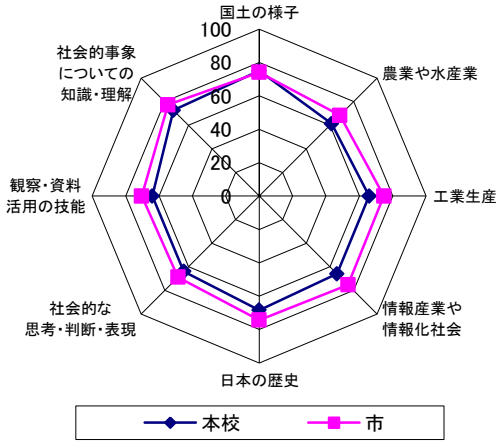


宇都宮市立上河内東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	75.0	74.1	72.5
	農業や水産業	61.4	68.4	61.6
	工業生産	65.9	74.7	68.2
	情報産業や情報化社会	65.9	75.3	74.0
	日本の歴史	68.4	74.4	69.3
観点別	社会的な思考・判断・表現	63.8	68.7	64.2
	観察・資料活用技能	64.1	70.3	68.1
	社会的事象についての知識・理解	72.7	77.3	72.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	平均正答率は、市の平均を若干上回った。 ○日本周辺の海洋名、森林を守るための間伐、環境を大切にするリサイクルについての設問の正答率が85%を超えた。 ●日本海側の気候のグラフについての設問が36.4%で、市の平均をやや下回った。	・国土についての基礎的な事項については理解できている。気候の特徴について、地形と関連付けながらグラフの読み取りを行うなどしていく。今後も国土の地形や気候などについて関心をもたせ、日常生活の中でも機会をとらえて指導を継続していく。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均を7ポイント下回った。 ○米作りに向いている地域の特色についての設問の正答率は、市の平均を上回った。 ●地図の読み取りや資料をもとに判断したり考察したりする設問の正答率が低かった。	・資料の題目を押さえ、一番大きな項目や変化に着目して特徴をつかむなどの基本を今後ともいねいに指導していく。その上でそこから判断したり考察したりすることもくり返し行っていく。
工業生産	平均正答率は、市の平均を8.8ポイント下回った。 ○自動車生産の工程については、86.4%の正答率で、おおむね理解していると言える。 ●日本の工業地帯や工業地域の特色についての地図の読み取りの正答率が45.5%と低かった。	・各工業地帯や工業地域の特色について、改めて地理的環境や歴史的要素と関連させながら理解させていく。
情報産業や情報化社会	平均正答率は、市の平均を9.4ポイント下回った。 ○情報の利用の仕方について判断する設問では、80%以上の正答率であった。 ●情報ネットワークについて考察する設問の正答率が50.0%と低かった。	・情報ネットワークは、病院やコンビニエンス・ストアなど、実は自分の身近なところに存在することをふまえさせ、生活とのかかわりの中でとらえられ、考察しやすいことを指導する。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均を6ポイント下回った。 ○すみ絵や書院造などの室町時代の文化や歴史上の人物についての設問の正答率は高く、市の平均を上回った。 ●古代史についての設問の正答率が低かった。	・学習してから時間が経っている単元について、忘れてしまっている傾向があるため、歴史学習を行っていく上では、既習単元についての確認や復習の頻度を増やすとともに、歴史人物の思いや行動と社会情勢の移り変わりの関係についての学習をしっかりと行い、歴史の流れを俯瞰的にとらえられるような指導を心がける。